

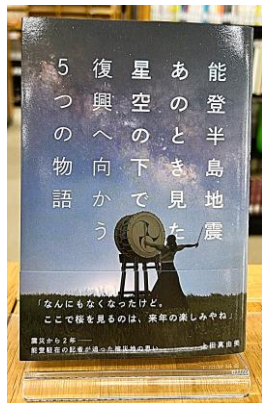


議会図書室からのお知らせ

今月の新着図書
R8年2月（一般用）

『能登半島地震 あの時見た星空の下で～復興へ向かう5つの物語』

上田 真由美【著】/朝日新聞出版 (2025/12)



令和8年元日、能登半島地震が起きてから2年となった。能登半島の人々は地震にどう向き合ったのか、そして今の気持ち、暮らしはどうなっているのか？ 現地駐在の記者が、能登で生きる人々の営みの尊さを伝える。

『にっぽんのクマ』

山崎 晃司【監修】/カンゼン (2025/3)



人身・農作物被害の急増により、深刻化するクマ問題。実は以前から日本には多くの野生のクマがいて、元々身近な存在だと言える。本書は語る。種類による違い、行動、能力など、クマの生態がわかる本。

『ワンダードッグ 人に寄り添う犬たち～日本初のファシリティドッグ“ベイリー”とその仲間たちの物語』

モーリーン=マウラー他【著】 齋藤 めぐみ【訳】/緑書房 (2024/12)



ファシリティドッグ育成団体創設者である著者が、これまで育成してきた「アシスタンスドッグ」と人々との絆や交流をまとめた1冊。犬と人々が再びチャンスをつかみ、困難を乗り越えていく、心温まる16の物語。

『考察する若者たち』

三宅 香帆【著】/PHP研究所 (2025/11)



なぜ映画を観た後、考察動画を見たくなるのか？ 今まで視聴者は「批評」してきたが、今は解釈の正解を当てる「考察」を見るのが人気だと著者は語る。その背景にある思考は何か？ 令和日本の深層心理を読み解く！

『ジェンダード・イノベーションの可能性』

小川 眞里子・鶴田 想人 他【編著】/明石書店 (2024/10)



「ジェンダード・イノベーション」とは、ステレオタイプに陥ることなく、性差を知的創造と技術革新に組み込み、新たな開発や発見を実現するという概念。世界的に推進されつつある新しい概念を知るための入門書。

『セキュリティ1年生～図解でわかる！会話でまなべる！』

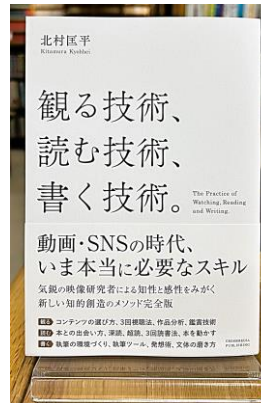
上野 宣【著】/翔泳社 (2025/10)



「セキュリティ対策って何をすればいいの？」と戸惑う初心者でも、対話形式で楽しくわかりやすく学べる1冊。セキュリティの基本要素の説明、事故への対策、問題発生時の対応方法などを丁寧に解説する。

『観る技術、読む技術、書く技術。』

北村 匡平【著】/クロスメディア・パブリッシング (2025/12)



サブスク・動画全盛時代に欠かせない「観る技術」、速読・多読では得られない、深く「読む技術」、書き続けるための環境作りから、魅力的な文章を生み出す「書く技術」までを体系的に紹介。知性と感性を深めるための1冊！

『中国と台湾～危機と均衡の政治学』

松田 康博【著】/慶応義塾大学出版会 (2025/7)



身近にありながら捉えにくい、中国と台湾の関係性。なぜこれまで危機的局面が起きても紛争が起きずに現状維持できたのか？ それぞれの国内状況の変遷に伴う関係の変化を検証し、今後起こりうるケースを検討する。

▶「障害者支援」に関する書籍



『ライオンを飼いたい』

大久保 薫・大友 愛美【著】/中央法規出版
(2025/1)



障害のある方の支援に携わってきた著者が、支援について様々な角度から向き合い、自身の経験を語る。支援者と利用者の関係性、制度と支援、支援と支配など、支援者に読んでほしい、支援の手前のテーマを掲載。

『障害のある人の暮らす権利 ～ともに歩む支援者たちへ』

田中 智子・三木 裕和 他【編著】/クリエイツ
かもがわ (2025/6)



入所施設・グループホームなどで暮らす障害者は、現在30万人を超えと言われる。自立、意思決定、子育て支援、強度行動障害など「暮らしの場での専門性」を理論化した書。寄り添い続ける支援者へ敬意とエールを送る。

『日本手話がおしえてくれること ～ろう者から学ぶための65の疑問』

NPO法人バイリンガル・バイカルチュラルろう
教育センター【編】 榎 陽子 他【著】/
大修館書店 (2025/8)



「手話って世界共通なの？」
「ろう学校ってどんなところ？」
日本手話という独自の言語を話し、独自の文化を持つろう者の方々。その深く豊かなろう文化を、Q&A形式でわかりやすく紹介！

『強度行動障害のある人を支えるヒント とアイデア～本人の「困った!」、支援者の「どうしよう…」を軽くする』

西田 武志・福島 龍三郎【編著】/中央法規
出版 (2023/9)



特性に適した支援が行われない場合の強度行動障害者の行動は様々で、支援者の対応力が重要となる。実践から導き出した向き合い方、権利擁護の視点、チーム支援などのヒント・アイデアをわかりやすく解説する。



図書広報委員がおすすめる一冊

『小栗上野介 ～忘れられた悲劇の幕臣』



著者：村上泰賢 /平凡社 (2010年12月)



紹介者：追川 徳信 委員
自由民主党・高崎市選出・2期

本書『小栗上野介 忘れられた悲劇の幕臣』は、幕末に日本の近代化を構想・実行しようとした幕臣・小栗上野介忠順の実像を描いています。

遣米使節として近代国家を体感し、帰国後は、勘定奉行・外国奉行として財政改革や軍制整備を推進しましたが、幕府崩壊後に無実のまま処刑され、その先見性は歴史に埋もれてしまいました。

遣米使節渡米150周年と、令和9年開始予定のNHK大河ドラマ『逆賊の幕臣』を機に、歴史の真実を知り、正しく伝えることを願う一冊です。是非読んでいただいて歴史の真実を知って頂ければ幸いです。

■次号では、亀山 貴史 副委員長におすすめています！

